

第3学年1組 保健体育科学習指導案

指導者 廣石 真奈美

1 日 時 令和4年6月10日(金) 11:20~12:10

2 単 元 名 球技ゴール型「ユニバーサルホッケー」
体育理論「文化としてのスポーツの意義」

3 学 習 空 間 体育館

4 単元(題材)について

(1) ユニバーサルホッケーは、ユニバーサル(Universal)とホッケー(Hockey)をつないだ用語で、ホッケー形式のスポーツを子どもから大人まで誰にでも安全で手軽に楽しめるようにと日本で考案されたチームスポーツである。このスポーツは、「より速く、より高く、より強く」というエリートをめざすスポーツに対して、より安全に気楽に健康を維持できる運動生活を実現しようとする、いわば、老いも若きも子どもたちも、ハンディキャップの人たちも万人が、安全で楽しく生活できることをめざすノーマライゼーションを期待されて考案されている。この理念を知り学習することで、運動の得意な生徒も苦手な生徒も一緒にスポーツを楽しむ価値を実感することができると思う。また、同時に体育理論「文化としての意義」を学ぶことで、文化としてのスポーツが人々を結び付ける重要な役割を担っていることや、用具やルール等を工夫することで誰でもスポーツを楽しむことができることを知り、自分のこれまでの「スポーツ観」が変容しこれからの豊かなスポーツライフにつながりやすくなるのではないかと考える。さらに、本単元の学習を中学校球技「ゴール型」の最後に位置づけることで、これまで学習してきたゴール型の種目(バスケットボールやアルティメット等)の知識や技能を活用して、勝敗を競う喜びや作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームを展開して楽しむという「選択学習」の学びにもつながると考える。

(2) 本学級の生徒は、男子16名、女子19名の合計35名である。第1学年で「バスケットボール」第2学年で「アルティメット」とゴール型種目を学習しており、基本的なボール操作や空いた空間に走り込むなどの動きによって点を取る作戦や戦術などを学んでいる。ゴール型の部活動に入っている者は9名いるが、全員がユニバーサルホッケーをするのは初めてである。

単元前のアンケート調査(n=35)では、「運動やスポーツをすることは好きですか」という問いに対して、否定的回答が37%だった。その理由として「スポーツをするのが苦痛だから」「得意ではないから」「上手くできないから」「運動をする時間がないし楽しさがよく分からないから」というものだった。しかし、「体育の授業は好きですか」という問いに対して、否定的回答は2%だった。肯定的回答理由を見ていると、「みんなでやると楽しいし達成感があるから」という回答がほとんどで、既存のスポーツへの苦手意識は強いが、体育の授業で教材化されたスポーツに対しては、仲間と一緒にやることの楽しさを感じている生徒が多いことが分かる。

(3) 本単元(題材)を指導する(個の「ものがたり」を深める)にあたって、次の点に留意したい。

- ・ 教科書にも載っていない新しいスポーツ「ユニバーサルホッケー」と出会あわせることで、生徒のスポーツ観が広がりこれからの生涯スポーツへの選択肢が広がるようにする。
- ・ 生徒の語りや体育ノートの記録から、ユニバーサルホッケーに対する学びやそこから生まれた新たな気づきや疑問を把握し、生徒の文脈に沿った問いとなるよう課題や発問を設定する。
- ・ ゲームの振り返りや次戦への話し合いの場面で、運動の得意な生徒や発言力のある生徒の考えだけで対話が進まないように、客観的な資料やデータを用意し対等な話し合いの場を設定する。
- ・ 球技ゴール型の単元に体育理論を導入した単元構成にすることで、知識と技能を相互に関連させて学習を行えるようにする。
- ・ 単元後に、「する」「見る」「支える」「知る(調べる)」「創る」などの視点から授業を振り返り、自己とチーム、自己と運動やスポーツとのかかわりについてのレポートを書き、自分の「スポーツ観」を捉え直すことで豊かなスポーツライフへとつながる学びにする。

5 本単元の目標

(1) 本単元の「ものがたりの授業」構想図

『ものがたりの授業』

★授業者のねがい(授業を通して生徒に期待する成長や変容)

用具やルールを工夫し様々な人と一緒にスポーツを楽しむことができる力をつけさせたい。

●題材(ユニバーサルホッケー)に対する「ものがたり」の変容

(学習前)

スポーツをするための用具やルールはそもそも決まっているもの。

探究的な学び
他者と語り合う

(学習後)


みんなですportを楽しむために用具やルールは自由に変えて良い。だからユニバーサルスポーツやNewスポーツが生まれている。

《(授業者が考えた)単元学習後の「振り返り」例》 *「自己に引きつけた語り」部分
私はこれまでホッケーというスポーツは聞いたことはあったが見たこともないしやったこともなかった。しかし、今回実際にユニバーサルホッケーをやってみて、運動の苦手な私もみんなと同じように楽しむことができた。なぜかと言うと、スティックもボールもプラスチック製でとても軽くて力のない私でも簡単に操作することができた。また、「万人が楽しめるスポーツ」として日本で考案されたことにも驚いた。「いつでも、どこでも、誰でも、そしていつまでも」楽しむことのできるスポーツという考え方や、障害の有無や体力、体格差に関係なくスポーツを楽しんでいこうというスポーツ文化に共感することができた。これまでのスポーツのイメージは、学校の授業で行ったり運動部の子どもたちが競ったりするものだと思っていたけど、ユニバーサルスポーツを知り、学校以外の場面でもいろんな人とスポーツを通じて交流してみたいと思ったし、新たなユニバーサルスポーツを作ってみたいとも思った。

(2) 本単元で育成する資質・能力

<p style="text-align: center;">知 識 能</p>	<p>・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。</p> <p>●文化としてのスポーツの意義について理解することができるようにする。</p>	<p>○技術の名称やユニバーサルホッケーの成り立ち、技術を身につけるためのポイント、安全な行い方等を理解することができる。</p> <p>○空いている場所に素早く動いたり、スティックでボールを操作してパスやシュートをしたりすることができる。</p> <p>●ルールや用具を工夫し、さまざまな違いを超えて一緒に楽しむことができる。</p>
<p style="text-align: center;">思 考 力 判 断 力 表 現 力 等</p>	<p>・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>●文化としてのスポーツの意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。</p>	<p>○資料やデータ、練習やゲームの姿から、動作的・空間的・身体的視点から自己や仲間の課題を的確に発見し、分かりやすく伝える（表現する）ことができる。</p> <p>●自己や仲間がユニバーサルホッケーの楽しさや喜びに触れることができるように、工夫した用具やルールを提案したり選んだりすることができる。</p>
<p style="text-align: center;">学 び に 向 か う 力 人 間 性 等</p>	<p>・球技に自主的に取り組む。フェアなプレイを大切にしようとする。作戦などについての話し合いに貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い教え合おうとする。健康、安全を確保することができるようにする。</p> <p>●文化としてのスポーツの意義についての学習に自主的に取り組むことができるようにする。</p>	<p>○自ら進んで練習やゲームに取り組もうとする。チームの話し合いがうまく進むように協力しようとする。フェアなプレイを守り、相手や仲間を思いやる姿が見られる。仲間の練習・ゲームを補助したり励ましたりしようとする。</p> <p>●自分で自由に用具やルールを工夫して、これからも運動やスポーツに楽しくかかわっていこうとする姿を見ることができる。</p>

(3) 単元構成 (全 12 時間)

時間	◆学習内容と学習課題 (中心の問い)	生徒の思考・反応・振り返り
0 (学習前)	◆これまで学習してきた球技「ゴール型」について思い出す。	<p>ゴール型っていうと、バスケ、サッカー(フットサル)、ハンドボールだね。シュートが決まった時は嬉しいし、盛り上がるよね。</p> 

<p>1</p>	<p><u>(学習課題) ユニバーサルホッケーってどんなスポーツ？</u></p> <p>◆ユニバーサルホッケーというスポーツが生まれた歴史やルール、特性などを学ぶ。</p> <p>◆これまで学習してきた「ゴール型」の知識・技能について振り返り全体で共有する。</p> <p>【実技教科書P106～107確認】</p>	<p>中世ヨーロッパのバンディというスティックスポーツが発端で、アイスホッケーや室内ホッケー、そしてグラウンドホッケーに姿を変えていったんだ。ユニバーサルホッケーは、このホッケー形式のスポーツを子どもから大人まで誰にでも安全で手軽に楽しめるように、日本で考案されたスポーツなんだ！驚き！</p> <p>ドリブルやパスなどのボール操作や空いた空間に走り込むなどボールを持たないときの動きがポイント！いかにノーマーク(フリー)でシュートが打てるかが勝利のカギ！</p>
<p>2</p>	<p><u>(学習課題) ユニバーサルホッケーを楽しむために必要なことは？</u></p> <p>★試しのゲームを通して、スティック操作の難しさに気づかせる。</p>	<p>簡単にゴールできると思ったけど、上手くスティックを使ってボールをコントロールできないから、空振りしたりDFにすぐボールをとられたりして全くシュートまでいけない。</p> <p>バスケットは手、サッカーは足を使ってボールをコントロールできるけど、ホッケーはスティックを上手く使えないとゲームにならないな。</p> <p>スティックが足とかに当たりそうで怖い。</p>
<p>3</p>	<p><u>(学習課題) ボールを自由にコントロールするためのスティック操作とは？</u></p> <p>★ホッケー専門の指導者を招いて、基本的な技術指導を受ける。</p> <p>◆スティックの操作、ボールの止め方、パス、ドリブルの仕方を学ぶ。同時にみんなが安全に楽しむことが大切であることを学ぶ。</p>	<p>スティックは利き腕を下にして両手で持つ。片手で持ってコンパクトに打ったりすることもできる。またボールを飛ばしたい距離によってシャフトの部分を短く持ったり長く持ったりして、てこの原理を使ってボールを狙ったところに打つことができる。</p> <p>ボールはブレードだけで止めると思っていたけど、シャフトの部分も使って止めると強くて速いボールも確実に止めることができるんだ。</p> <p>ドリブルはブレードでボールを押し進めるイメージですとコントロールしやすい！また、左右のブレードを使うことで小回りもできてスムーズにボールを運ぶことができた。</p> <p>スティックを使うスポーツだということで、絶対ケガをしない！させない！という意識が大切！何より、みんなが安全に楽しむことが大事！</p>

(学習課題) どうすれば、相手守備を突破し、相手より多く得点がとれるのか？

◆トーナメント戦を行う。

★正規のルールに近い状態でゲームをすることで、シュートが入りにくくユニバーサルホッケーに難しさや恐怖感を感じている。



アンケートでは、「スティックが当たりそうで怖い」「ボールが上手く打てないから少し苦手」と回答している人がいました。これって本当に「ユニバーサル」といっていいのでしょうか？

シュートを打ちたいけど、6人いるからみんながボールに集まってグチャグチャになっていてフリーの状態がつかれない。



オールコートだから頑張って走らないと、サイドから良いパスがゴール前に入っても味方がいない。



反則をしたのかしてないのかがよく分からないから嫌な雰囲気になってしまいコートに入りにくい。



ユニバーサルではない気がする。



6
(体育理論)

(学習課題) ユニバーサルホッケーは本当に「ユニバーサル」なのか？

★難しさや恐怖感を感じている生徒がいることが、「誰もが」楽しめるという点で「ユニバーサル」ではないということに気づかせる。

★これまでに学習してきたゴール型のゲームの中で工夫された用具やルールを提示したり、体育理論から学んだりして気づかせる。

【体育理論教科書P164・165】



ではまず、それぞれのチームでどんな工夫ができるか考えてみましょう。

★工夫する用具やルールが何でもありにならないように、用具、人数、時間、空間、得点、制限の6点の視点から考えさせる。

どうしたらユニバーサルになるんだろう？



ゴールの形、コートに入る人数、DFゾーンの制限、ドリブル禁止、ボールの工夫など、いろんな視点から工夫することができるんだな！



- ・ゴールを台形にする
- ・人数を4人(男子2女子2)にする
- ・人数を5人(男子3女子2)にする
- ・ボールを大きくする。
- ・異性へのマーク禁止 など

どのチームのルールが良いのか、実際ゲームするのが楽しみだな。



ゴールを広げてゴールエリアも広くなったことで前よりもシュートが入りやすくなった！



人数が減ったことで、ボールに集まることがなくなって、ドリブルやパスがしやすくなった。



(学習課題) みんなで考えたルールで試しのゲームをしよう。



みんながゲームに参加しやすくなりましたね。でもまだ、攻撃に参加できない人がいたり「意図的な攻撃」つながっていない人がいたりするみたいです。これまでのゴール型の学習を振り返ってさらにどんな工夫ができるか考えましょう。

8

(学習課題) みんながフリーでシュートを打ちやすくなるルールとは？

★アナリストが撮影した映像やデータを基に、アウトナンバーの状況が作りづらいことや攻守の入れ替わりがあることで、意図的な攻撃ができていない場面をピックアップして見せることで、どの視点でルールを工夫すれば良いかを考えやすくする。

9
(本時)

◆さらに工夫を加えたルールでゲームを行い、ルールの修正を行う。

10

(学習課題) クラスマッチを開こう！

11

12

◆みんなで考えたルールで試合を行う。

★運営や審判なども自分たちで行うことで、多様なかかわり方を実感する。

13

(体育理論)

(学習課題) なぜスポーツは人々を結び付けるのか？

◆スポーツは、民族や国、人種や性、障害の有無などの違いを超えて人々を結び付けていることを学ぶ。

★スポーツは文化的な働きがあることを知り、自分のこれからのスポーツとのかかわり方を「する」「見る」「支える」「知る」「創る」という多様な視点から捉え直す。

攻撃と守備両方のことを考えないといけないから難しい。



ゴール前にDFがたくさんいるからシュートが打ちづらいよね。



ゴールを1つにして、攻守を分けてやってみるといいかも。



1チームの人数を減らしてはどうか。



シュートは打ちやすくなったけど、やっぱりフリーの状況はつくりにくい。



DFが行き来できるエリアを制限したらどうか？



始めはホッケーって何？難しそうと思っていたけれど、ルールや用具を工夫するとみんながホッケーを楽しむことができた。これまでやってきたゴール型のスポーツの中で1番面白いかも！



みんなで決めたルールだから、これまで以上にフェアな状態で試合をすることができるな。



審判として責任をもってみんなが楽しめる大会にしよう意識することができた。「支える」かかわりが大事だとより実感することができた。



スポーツには、言葉が通じなくても楽しみや感動を共有する力があるんだな！



ルールや用具を工夫すれば、さまざまな違いを超えて一緒に楽しむことができるんだな！



「ユニバーサルホッケー」や「コーフボール」のように新たなニュースポーツを自分たちで創ることに興味を湧いてきたな！



6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・ 自分や仲間がゴール型の球技としてのユニバーサルホッケーの楽しさや喜びに触れることができるように、ルールを考えることができる。
- ・ 用具やルールを工夫すれば、性差や技能差など関係なくみんな一緒に楽しむことができることに気づく。

(2) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	○教師のかかわり・★しかけ
1 学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の授業では全員がフリーでシュートを打つためのルールを考えたな。 	○ 前回考えたルールを提示し、再確認させる。
学習課題：みんながフリーでシュートを打ちやすくなるルールとは？		
2 チームで作戦を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴール前で三角形の形を作るように意識しよう。 ・ フリーになれるように、パスを出した後空いたスペースに走り込もう。 	○ ゴール型の動きや戦術が考えられてないチームにアドバイスする。
3 改善したルールで試しのゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴール前で確実にフリーになれるから、シュートが打ちやすい。 ・ ゴール前でフリーになるのはまだ難しいな。 	○ 「する」だけでなく「見る」「支える」かかわりができるよう助言する。
4 振り返りを行う。 (1)チームでの振り返り	【予想される生徒の語りの具体】	★ゲームでのシュート数、フリーでシュートが打てた数を提示する
<p>T：今日のゲームでシュートを決めた人はどれくらいいますか。 それぞれのチームでかなりシュート数や得点は増えたように思います。それでも、今日の試合でデータをとると、シュートを打つ人に偏りがあったり、まだまだフリーで打てていない人が多いようです。今日の試合を振り返って、「全員がフリーでシュートを打てるのか」「フリーでシュートを打つチャンスができるのか」という視点でもう一度ルールを見直してみましよう。</p> <p>S 1：これまで攻撃にあまり参加できなくて、シュート打ったことなかったけど、今日は初めてシュート打って得点することができた。</p> <p>S 2：だいぶシュートは打ちやすくなったけど、まだまだ攻撃しにくいよね。</p> <p>S 3：ゴール前に1人いるし、攻撃も守備も同じ人数だからやっぱりフリーにはなりづらいな。</p> <p>S 4：守備に参加できる人数を制限したらどうかな？</p> <p>S 2：そのルールだったら、私も簡単にフリーになれそう！</p>		

<p>(2) 全体での振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴール前で攻撃側が数的優位の状況になれるようなルールにするといいね。 ・ 守備の空間制限を設けることできっと誰でもフリーになれるはず。 	<p>○ 守備側の空間制限や人数制限などを設けることで、攻撃側の数的優位の状況が生まれ、簡単にフリーの状態が作り出しやすいことに気づかせる。</p>
<p>(3) 個人での振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでのルールではフリーでシュートを打つのは難しかったけど、今度こそシュートを決められそうな気がする。 ・ もっとチームで練習してリーグ戦に臨まないといけないな。 ・ 次の時間からみんなで考えたルールでするリーグ戦が楽しみだ。 	

7 見取り

- ・ 授業後のレポートにおいて、ユニバーサルホッケーという新しいスポーツに出会い体験することで、これまでのスポーツ観を捉え直した語りが生まれているか。
- ・ 授業後のレポートにおいて、スポーツは用具やルールを工夫することで性差や技能差関係なく一緒に楽しむことができることに気づき、これからの生涯スポーツにつながる「自己に引きつけた語り」が生まれているか。